

# 絶対形容詞 unique の意味の諸相

— メトニミーとモダリティの観点から

友澤 宏 隆

## 1. 序説

英語の形容詞 unique は、伝統的にいわゆる「絶対形容詞 (absolute adjectives)」として分類されてきたものの一つである。絶対形容詞は段階的 (gradable) と非段階的 (non-gradable) という形容詞の区分に関するものである<sup>(1)</sup>。英語の形容詞は典型的には段階的形容詞に分類されるが、非段階的な形容詞も少なくない<sup>(2)</sup>。次のものは後者の例である (Huddleston and Pullum 2002: 531) :

- (1) alphabetical, ancillary, chief, equine, federal, glandular, latter, left, marine, medical, obtainable, orthogonal, phonological, public, residual, syllabic, tenth, utter

このような区別は、実は形容詞そのものではなくその意味・用法に関する区別であり、同一の形容詞であってもその意味・用法の違いにより段階的・非段階的両方の場合がありうる。たとえば次の (2)–(5) の下線部において、同じ形容詞が前者は非段階的、後者は段階的な意味で用いられている (Huddleston and Pullum 2002: *ibid.*) :

- (2) the public highway / a very public quarrel  
(3) Christian martyrs / not very Christian behaviour  
(4) a British passport / He sounds very British.  
(5) The door was open. / You haven't been very open with us.

この段階的・非段階的の区別に関連して、絶対形容詞の名で呼ばれる形容詞として次のものがある (Huddleston and Pullum 2002: *ibid.*) :

- (6) absolute, complete, correct, equal, essential, eternal, ideal, impossible, perfect, supreme, total, unique

これらの形容詞は非段階的であることが規範とされるもので、段階的に（したがって、程度修飾表現や比較表現で）用いられるべきではないとされるものである<sup>(3)</sup>。unique はその中でも代表格とされ、その規範からの逸脱がしばしば批判の対象となってきたことで知られている<sup>(4)</sup>。しかし実際には、unique はこのような程度修飾・比較の表現で示されるような段階的な意味で用いられることが少なくなく、規範との間には明確な乖離が存在するようである<sup>(5)</sup>。

本稿では、絶対形容詞に分類されてきた unique に焦点を当て、その意味の諸相を妥当に把握することを試みる。以下では種々の用例を通して、形容詞 unique の基本的意味・用法を考察した後、その非段階的の意味の範囲の中での意味構造の関係づけおよび非段階的の意味から段階的の意味への意味の拡張のあり方を追究することにより、unique の意味のネットワークを明らかにすることを試みる。前者においては、意味構造間の関係をメトニミー／換喩の一種として捉えることができること、そして後者においては、他の絶対形容詞の意味的拡張との対照も視野に入れた上で、拡張的の意味の派生は本来的意味への「可能性のモダリティ」の意味の付加に基づくことと仮定することが妥当であることを論じたいと思う。

## 2. 形容詞 unique の基本的意味・用法

ここではまず、形容詞 unique の語源を確認した後、その基本的とされる意味と用法を種々の具体的な例に基づいて考察していくことにする。

### 2.1 unique の語源

形容詞 unique の語源はラテン語の *unicus*（(ただ) 一つの）であり、フランス語を経て 17 世紀初頭に英語に入ったものである。英語に入った当初は原義を反映した “single, sole, solitary”（単一の、唯一の）の意味で用いられ（例：*his unic Son* ‘his only son’）、フランス語（およびスペイン語など大陸の諸語）では現在でもこのような意味が主流であるが（例：*Fr. fils/fille unique* ‘only son/daughter’）、現代英語の unique はそれよりも “of which there is only one; unequalled; having no like, equal, or parallel,” “being the only one of its kind”（その種類のものの中でただ一つの）の意味で用いられるほうが普通である<sup>(6)</sup>。これはラテン語由来のこの語の意味変化の第一段階であると言ってよいであろう。

## 2.2 unique の基本的意味・用法

英語の unique はこのように、〈個体（そのもの）が唯一である〉という元の意味から〈それが所属するカテゴリーの種類における唯一のメンバーである〉という意味が派生し、それが語の基本的な意味になっている。この意味で用いられた例としては、次のようなものがある：

- (7) Each person's fingerprints are unique. (*LDCE*<sup>3</sup>, cf. *OALD*<sup>6</sup>)
- (8) Each person's signature is unique. (*Collins COBUILD SD*<sup>3</sup>)
- (9) Each person's genetic code is unique except in the case of identical twins. (*CALD*<sup>3</sup>)
- (10) Sydney's Opera House is a unique building. (Peters 2004: 557)

(7)(8)(9) はそれぞれ、『指紋』『署名、サイン』『遺伝コード』にはさまざまな種類があるが、各人の『指紋』『署名、サイン』『遺伝コード』が属する種類のものとはそれ以外にない」ということである。(10) は、「シドニーのオペラハウスは建造物の一種であり、建造物にはさまざまな特徴を持ったさまざまな種類のものがあるが、それと同じ特徴を有する建造物は他にはなく [それしかなく]、それは独特の建造物である」ということである。次の例も同様に考えられよう：

- (11) While much of science deals with regularity in the course of events, the historian, like the journalist, deals with unique events that are not ordinarily repeated. (Goldstein 2007: 40)
- (12) Dorcwell Computer Consulting, LLC is a locally owned business, not a franchise. We strive to be a unique leader in the IT services industry by providing friendly, fast, and reliable services for both commercial and residential customers.

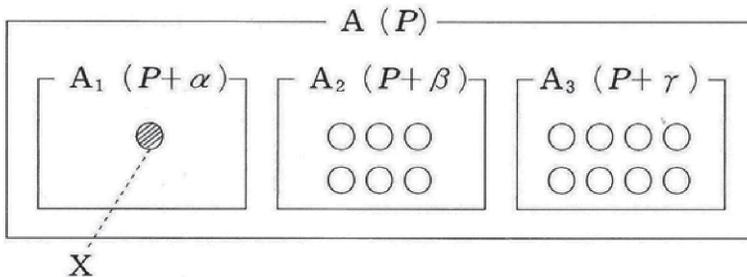
<http://www.dorcwellcomputerconsulting.com/about.php>

(11) は「それと同じ種類の出来事は他にはない [それしかない] ような出来事」ということで、「1 回限りの [1 回きりの] 出来事」ということである。(12) は「当社は IT サービス業界のリーダーの中で他社にはない特徴を持った存在 [独自の存在] となることを目指す」ということで、要するに「IT サービス業界『オンリーワン』の企業を目指す」ということである<sup>(7)</sup>。これら (7)–(12) の例から、この場合の unique の表現形式の意味構造は一般に次のように規定することができる：

- (13) 表現形式 X is unique / X is a unique A の意味構造

事物  $X$  がカテゴリ  $A$  に属するとし、 $A$  の属性を  $P$ 、 $X$  の属性を  $P + \alpha$  とするとき、 $P + \alpha$  の属性を有する下位カテゴリ  $A_1$  のメンバーが  $X$  のみである

これは図示すると次のようになる。 $A_1$ 、 $A_2$ 、 $A_3$  は  $A$  の下位カテゴリであり、 $P + \alpha$ 、 $P + \beta$ 、 $P + \gamma$  はそれぞれその属性である。丸印は各々のメンバーを並べたものである：



ここで注意すべきことは、 $A_1$  の属性の一部として  $A$  の属性に付加される要素  $\alpha$  の内容は表現の中では一般には明示されず、 $X$  が異なればそれに対応して異なるものになるということである。したがって、たとえば次の (14a)(14b) の場合、両者とも  $X$  は  $A$  (=fingerprints) であり、 $A$  の属性  $P$  は共通であるが、各々の付加的属性  $\alpha$  は表現内には明示されておらず、かつそれらは (相当程度) 異なったものであるということである：

(14a) My fingerprints are unique.

(14b) Your fingerprints are unique.

また次の (15) において、unique の用法が (13) の特徴づけに合致したものであるとすると、(10) と (15) はその  $A$  (=building) およびその属性  $P$  は共通であるが、明示されていない付加的属性  $\alpha$  はそれぞれまったく異なったものであることになる：

(15) Portland Union Station is a unique building in a very beautiful city.

[http://www.tripadvisor.com/ShowUserReviews-g52024-d561984-r136357608-Union\\_Station-Portland\\_Oregon.html](http://www.tripadvisor.com/ShowUserReviews-g52024-d561984-r136357608-Union_Station-Portland_Oregon.html)

意味構造 (13) において、この場合  $X$  に該当する事物は unique であると認定され、 $X$  に該当しない事物は unique であるとは認定されない。すなわち、それが unique であるか否かは二者択一に決定され、そこには程度差が生じる余地は存在しないため、この unique は非段階的な意味で用いられていると言える。そうする

とこの場合, very や more など程度修飾・比較表現を構成する語句とともに用いることはできないことになるが, absolutely, quite, really, truly, totally などの強意語 (intensifiers) や, 形容詞が表す性状の認定の未達成を示す副詞 almost を修飾語としてとることは可能であるとされる<sup>(8)</sup>。したがって, たとえばさきほどの例の unique に強意語を付加した次のような表現は可能である:

- (16) Each person's fingerprints are absolutely unique.  
 (17) Sydney's Opera House is a truly unique building.

### 3. 形容詞 unique の意味のネットワーク

上節では unique の基本的意味・用法について検討したが, ここではその議論に基づいて形容詞 unique の意味のネットワークの諸相の解明を試みる。以下では, まず非段階的意味の範囲の中での意味構造の関係づけについて考え, その後非段階的意味から段階的意味への拡張のあり方について考えたいと思う。

#### 3.1 unique の意味構造の関係づけ——メトニミーの観点から

2. 2 で扱った unique の諸例は (13) の意味構造を共有するものであるが, unique にはそれと関連を持ちながら多少異なった様相を示す用法が存在する。次の例を見てみよう:

- (18) The Japanese fox has certain other unique features—he is the messenger of the God *Inarisama*, and he likes fried bean curd. (小西 1989: 1934)  
 (19) Although cancer can develop in virtually any of the body's tissues, and each type of cancer has its unique features, the basic processes that produce cancer are quite similar in all forms of the disease. (Insel et al. 2012: 227)  
 (20) When developing a care plan, your chiropractic doctor considers the unique circumstances of each patient.  
[http://www.hinschbergerchiropractic.com/pb/wp\\_88c9320e/wp\\_88c9320e.html](http://www.hinschbergerchiropractic.com/pb/wp_88c9320e/wp_88c9320e.html)  
 (21) Language is believed to be unique to human beings.  
 (22) The koala is unique to Australia. (*OALD*<sup>6</sup>)

(18) は「日本のキツネは他にもいくつかの特徴 (= 稲荷の神の使者であることと,

油揚げを好むこと)を持っており、それらは日本のキツネのみに見られる特徴である」ということであり、(19)(20)はそれぞれ「各々のタイプのガンには(他のタイプのガンにはない)独自の特征がある」「医師は各々の患者の独特の〔個別の〕事情、すなわち個々の患者ごとに異なる事情を考慮する」ということである。(21)(22)は unique to の形で用いられた叙述的用法であるが、それぞれ「言語は人間のみが持つもの〔人間独特のもの〕であると信じられている」「コアラはオーストラリアにのみ棲息する生物である、オーストラリア独特の生物である」ということであり、意味の上では(18)―(20)と共通するものである。これら(18)―(22)に関して、unique の表現形式の意味構造は次のように規定される：

(23) 表現形式 X has a unique S/the unique S of X/S is unique to X の意味構造  
事物 X が S を所有し、かつ S を所有する事物が X のみである

これは当該の事物 (=X) がある独自〔独特〕の特征〔事情〕(=S) を有するということであるが、この場合 S が unique であるか否かは二者択一に決定され、程度差は生じないため、この unique は 2. 2 で扱ったものと同様非段階的な意味で用いられていると言える。

形容詞 unique について二つの意味構造を提示したが、この両者はどのように関係づけられるものであろうか。(23)において気づくことは、X がそのように特徴づけられる事物であることによって、それ自体が独自・独特の存在であると見なしうるということである。すなわち、(18)―(22)が成り立つことによって、それぞれ次の(24)―(28)が成り立つと考えられる：

(18)→(24) The Japanese fox is unique.

(19)→(25) Each type of cancer is unique.

(20)→(26) Each patient is unique.

(21)→(27) Human beings are unique.

(22)→(28) Australia is unique.

これら(24)―(28)の unique は意味構造(13)に基づく(7)―(12)、(14ab)―(17)と同種の用法であり、形容詞 unique は主語名詞句が表す事物 X を叙述の対象としているが、意味構造(23)に基づく(18)―(22)においては形容詞 unique は主要部名詞が表す事物 X の特徴〔事情〕S を記述の対象としている。この場合、前者・後者の形容詞 unique をそれぞれ  $U_1$ ,  $U_2$  とし、それらが焦点化する X, S の特性をそれぞれ  $P_1$ ,  $P_2$  とすると、S が  $P_2$  を有するために X が  $P_1$  を有すると考えることができるため、その意味において  $U_1$  と  $U_2$  がそれぞれ表す  $P_1$  と  $P_2$  の間に

は因果関係が成立していると思なされるので、それに基づいて形容詞  $U_1$  と  $U_2$  の用法（および (13)(23) の意味構造）はメトニミー／換喩の一種によって関係づけられていると考えることができる。これは、difficult などの難易を表す形容詞が、規則的な対応関係にある Tough 構文と It-to 不定詞構文の述語に生じる場合に因果関係のメトニミーによって関係づけられるのと平行的であると考えられる（西村 2002:305, 306）：

(29a) It is difficult to read this book.

(29b) This book is difficult to read.

(29ab) において、前者の difficult ( $D_1$ ) は to read this book という「行為」の特性を焦点化し、後者の difficult ( $D_2$ ) は This book という「その行為の対象」の特性を焦点化するものであるが、両方の特性の間には因果関係が成立しているので、それに基づいて形容詞  $D_1$  と  $D_2$  の用法はメトニミーによって関係づけられるものとなる<sup>(9)</sup>。

### 3.2 unique の意味の拡張——モダリティの観点から

上ではメトニミーの観点から形容詞 unique の意味構造間の関係について考察した。これは非段階的の意味の範囲の中での関係づけであったが、unique は 1. で述べたように非段階的の意味のみならず段階的の意味で用いられることもしばしばあり、絶対形容詞の用法の規範を逸脱した形で意味のネットワークが形成されている。ここでは、そのような unique の拡張の意味の派生およびその非段階的の意味との関係について追究していきたいと思う。

2.1 で述べたように、unique は 17 世紀初頭にフランス語から英語に入った語であり、当初は外来語として意識されていたが、19 世紀中盤以降頻繁に用いられるようになり、それに伴って前節で扱ったような非段階的の意味から “uncommon,” “unusual,” “remarkable” などの段階的な意味への拡張が生じた<sup>(10)</sup>。段階性の獲得によって、very, rather などの程度副詞による修飾や more, most を用いた比較の表現で用いられるようになり、現在に至っている。次例を参照：

(30) this rather unique situation (Huddleston and Pullum 2002:532)

(31) Our Institute is a very unique place, not only bridging the gap between Christians and Jews but also between academics and clergy. (Burchfield 1996:809)

(32) Some design choices become so unique that they border on the eccentric

and make a property difficult to sell. (Burchfield 1996 : 809)

(33) the most unique person I've ever met (Huddleston and Pullum 2002 : 532)

これらの用法は意味の弱化によって生じたものとされているが、このような拡張的な意味（すなわち、段階的な意味）はこの語の本来の意味（すなわち、非段階的な意味）からどのような形で派生されたと考えられるであろうか。これに関して安井・秋山・中村（1976 : 263）は、perfect や unique などの場合「（それが関係する）尺度の一方の極／端の点を占める場合は比較の尺度にならない（すなわち、段階的ではない）が、それが幅を持つものと解することができれば比較の尺度になりうる（すなわち、段階性を持ちうる）」としている。たとえば perfect は unique と同様本来非段階的な形容詞であり、他のいくつかの語とともに同じ意味的次元に位置づけられる：

(34) bad—good—perfect

(34) では三つの形容詞が「事物の評価」の次元に位置づけられているが、この場合もし perfect が尺度の極／端の点を占めると考えられる場合は段階性を持たず、比較変化した形で用いることができないが、それが幅のある属性を表すと解することができる場合は（同じ意味的次元に属する bad, good と同様に）次のような比較表現が可能であると言う（安井・秋山・中村 1976 : ibid.）：

(35) a more perfect union

(36) This is the most perfect car I have ever driven.

次の例も同様である：

(37) A more perfect rake has seldom existed.

(Huddleston and Pullum 2002 : 532)

unique については common, rare と同じ次元に位置づけられ、段階性に関して perfect の場合と同様であるとしている（安井・秋山・中村 1976 : 263）：

(38) common—rare—unique

(38) において、その意味的次元は「事物の生起の頻度」であると考えられるが、ここで問題にすべきことは、unique が common, rare と本質的に同一の次元を共有しているのかどうかということである。前節で見たように、unique は〈その種類のものの中でただ一つの〉〈それが所属するカテゴリーの種類における唯一のメンバーである〉という意味が本来の意味であり、これは「事物の生起の頻度」とは直接関係がないものである<sup>(11)</sup>。次の例では、二つの形容詞 unique と common が同じ主要部名詞の修飾要素として等位接続されている：

- (39) Transient global amnesia is a unique and relatively common neurologic event that is poorly understood and frequently misdiagnosed.

<http://nelsonneurology.ca/documents/TransientGlobalAmnesia.pdf>

(39) は「一過性全健忘は神経疾患の中で独特のもので、かつ比較的頻度の高い疾患であるが、十分に理解されておらず誤診が多い」ということであり、unique は「事物の生起頻度」とは無関係の意味で用いられ、それゆえ「生起頻度」を表す relatively common と問題なく共起していると考えられる。このようなことから考えて、unique を common, rare などの「事物の生起頻度」を表す語と同一の意味的次元に位置づけた上で perfect などの場合と同様の形で非段階的意味から段階的意味への拡張を論じるのは妥当でないと思われる。

上では、他の語とともに構成される意味的次元を unique の拡張的意味の派生の基盤とすることの妥当性への疑問を提示したが、unique の意味拡張のあり方の説明として、ここでは次の分析を提案したいと思う：

- (40) unique の拡張的意味は、その本来的意味に可能性のモダリティの意味を付加することによって生成されたものであり、拡張的意味の段階性は、そのようなモダリティの種々の値に対応するものである

unique の「本来的意味」とは、〈それが所属するカテゴリーの種類における唯一のメンバーである〉という意味で、意味構造 (13) において特徴づけられたものであるが、それに対する「可能性のモダリティ」とは、〈実際にそれが所属するカテゴリーの種類における唯一のメンバーであるとは（現時点において）断定できないが、もしかしたらその可能性があるかもしれない、という話者の判断〉を意味する。

(40) の分析の妥当性について検討するために、次の例を見てみよう：

- (41) a unique opportunity (Burchfield 1996:808)

この unique は拡張的意味、すなわち “unusual,” “remarkable” の例として挙げられており、全体では「珍しい機会、めったにない（絶好の）機会」ということである。(41) では unique は修飾要素を伴っていないが、rather などの程度副詞による修飾も可能である：

- (42) a rather unique opportunity

(42) は「なかなか（めったに）ない機会」ということである。unique がこのような程度修飾語を伴っている場合はそれは拡張された段階的な意味で用いられていることになるが、そのような修飾要素を伴わない場合は、原則として本来的意味で用いられているとする見方もある<sup>(12)</sup>。そうであるとすると、(41) は「めったにない

機会」というよりも「またとない機会」ということになるであろう。この解釈の違いは、話者による事物の捉え方に基づくものであると考えられる。もし話者が「その機会」を「1回きり」のものであると捉えたとしたら、それは後者の解釈になるが、それを「1回きりのものであるとは断定できないが、もしかしたらそれが1回きりのもことになる可能性があるかもしれない」と捉えたとしたら、それは前者の解釈になる。すなわち、(41)において unique が本来の意味・拡張の意味のいずれの用法であるかは、当該の事物に対する話者の捉え方が断定的なものであるか、あるいは可能性のモダリティの枠の中での判断に基づくものであるかによって考えることができる。もし話者が可能性のモダリティの枠内で事物を捉えているとしたら、その「モダリティの値」に応じて unique の意味は「程度差」を持つことができることになり、すなわち「段階性」が生じることになる。このように考えると、拡張の意味の unique を修飾する very, rather などの程度副詞は、本来の意味の unique に付加される可能性のモダリティの種々の値に対応するものであると見なすことができる。たとえば、程度副詞によって unique の程度差が次のように順序づけられたとすると、左のものほど本来の意味の unique に付加される可能性のモダリティの値が高いと見なすことができる：

(43) extremely unique > very unique > rather unique

以上の考察から、unique の拡張の意味 (= 段階的意味) の派生は、その本来の意味 (= 非段階的意味) に付加される可能性のモダリティによって構成される意味的次元を仮定することによって達成されると考えるのが妥当であると思われる。

#### 4. 結語

本稿では、伝統的にいわゆる絶対形容詞として分類されてきた形容詞 unique に焦点を当て、その意味の諸相を把握することを試みた。unique は本来的には非段階的な意味を表し、そのような意味での用法が規範とされていたが、実際にはそのような規範からの逸脱が少なくなく、その意味の実像の解明が課題となる。本稿ではまず unique の基本的とされる意味・用法を確認し、非段階的意味の範囲内でのその意味構造の関係づけについて考察し、その上で非段階的意味から段階的意味への拡張のあり方を追究することにより、この形容詞の意味のネットワークを明らかにすることを試みた。非段階的意味の範囲内でのその意味構造の関係づけはメトニミー／換喩の一種として捉えることができること、および拡張の意味の派生はその

本来の意味に付加される可能性のモダリティによって構成される意味的次元を仮定することによって達成されると考えるのが妥当であることを論じた。前者の論点に関しては、文法における形容詞のメトニミーの問題として一般的観点からさらなる考究が可能であると思われる。後者の論点は、文法上大きな役割を果たすモダリティの概念が語彙の意味の分析にも関与しうることを示唆するという点では興味深いものであると言えるが、絶対形容詞またはそれに類する形容詞に関して、本稿で提示した unique の分析と同様の分析が可能なのが存在するか否かは今後の追究を待つところである。そのような限定された範囲において、同種の他の例が見出されるまでは、unique は（その本来の意味において）“unique”な形容詞であり続けるかもしれない。

## 注

1. 段階的形容詞はさまざまな程度差を示すと見なされる性質を表し、副詞の very などによる程度修飾や比較級・最上級などの比較の表現において用いられるものであり、非段階的形容詞はそのような特徴を持たないものである。Huddleston and Pullum (2002:531), Cruse (2011:312) および Berk (1999:176) を参照。より厳密には、段階的形容詞は「その意味構造において当該の次元 (dimension) を段階化する尺度 (scale) の存在を含意するもの (Rusieski 1985:3)」とすることができる。なお「段階的」という性質は、単に形容詞のみならず副詞・動詞・名詞にも当てはまるものである。安井・秋山・中村 (1976:117-120), Rusieski (1985:3, 4) および Huddleston and Pullum (2002:532) などを参照。
2. 段階的・非段階的という区別は形容詞の用法の統語上の違いとも関係がある。Rusieski (1985:3) によると、限定的用法 (= 名詞前位用法) のみで用いられる形容詞の大半は非段階的であるが、叙述的用法のみで用いられる形容詞の大半は段階的であるとのことである。
3. Wilson (1993:4) も参照。なお、「絶対形容詞」という用語は他の意味でも用いられることがある。たとえば Rusieski (1985:8, 10) は段階的形容詞の下位区分として「絶対形容詞」および「相対形容詞 (relative adjectives)」という分類を提示している。これは安藤 (2005:563, 564) で述べられている「尺度形容詞 (measure adjectives)」および「評価形容詞 (evaluative adjectives)」の区別に対応するものである。また、Cruse (2011:312) も「絶対形容詞」および「相対形容詞」という分類を提示しているが、前者は限定的用法 (= 名詞前位用法) において主要部名詞の包摂性に関係した含意関係を示すもの (例: *It is a black dog.* → (○) *It is a black animal.*) を指し、後者はそのような含意関係を示さないもの (例: *It's a small tyrannosaurus.* → (×) *It's a small animal.*) を指す。
4. たとえば次のような表現は、unique の用法として好ましくないものとして指摘されたりするようである (Huddleston and Pullum 2002:532):  
highly unique, one of the more unique features, the most unique person

5. Burchfield (1996:808) では, unique に関して, 段階的と思われる意味・用法が「語の意味が弱められた用法 (weakened uses)」として *The Cambridge International Dictionary of English* (1995) および *The Concise Oxford Dictionary of Current English (COD)* (1995) (=COD<sup>9</sup>) に掲載されていることが述べられている (ただし COD<sup>9</sup> はこの用法を 'disputed' (議論の余地のある用法) としている)。
6. 小西 (1989:1934), Burchfield (1996:808), COD<sup>9</sup>, LDCE<sup>3</sup> および OALD<sup>6</sup> を参照。
7. この「オンリーワン」という表現について, 一橋大学のウェブサイトの中の次の用例が目についた:  
 世界オンリーワンの大学として, 世界オンリーワンの学生を育て続けてほしい  
[http://www.hit-u.ac.jp/hq/vol020/pdf/hq20\\_01-07.pdf](http://www.hit-u.ac.jp/hq/vol020/pdf/hq20_01-07.pdf)  
 これはグローバル化を標榜する大学への期待を述べた象徴的なメッセージであるが, この「世界オンリーワンの大学」も, 英語では unique を用いて a unique university in the world, unique among the universities in the world などと表現することができるであろう。この場合メッセージにおいて「ユニークな大学」「ユニークな学生」などの表現を用いなかったのは, 外来語の「ユニーク」は英語の unique の一部の意味——後述の拡張的意味——に対応した意味で用いられることが多く, このメッセージに用いるのは適当でないと判断されたからであると思われる。
8. Peters (2004:557) および OALD<sup>6</sup> を参照。なお, この意味の unique と強意語等との共起可能性については Fowler (1926) で議論されている (Peters 2004: ibid.)。
9. このような形容詞のメトニミーについては, 認知文法の中で文法におけるメトニミーの問題として扱われている。Nishimura (2003), 西村 (2004) および西村・野矢 (2013) も参照。
10. 小西 (1989:1934) および Burchfield (1996:808) を参照。
11. rare と unique の意味の違いについて, 小西 (1989:1937) に指摘がある。
12. Peters (2004:558) を参照。

## 例文出典

Insel, Paul M., Don Ross, Kimberley McMahon and Melissa Bernstein (2012) *Discovering Nutrition*, Fourth Edition. Sudbury, MA: Jones & Bartlett Publishers.

Goldstein, Tom (2007) *Journalism and Truth: Strange Bedfellows*. Evanston, IL: Northwestern University Press.

CALD<sup>3</sup> = *Cambridge Advanced Learner's Dictionary*, Third Edition.

COD<sup>9</sup> = *The Concise Oxford Dictionary of Current English*, Ninth Edition.

Collins COBUILD SD<sup>3</sup> = *Collins COBUILD Student's Dictionary*, Third Edition.

LDCE<sup>3</sup> = *Longman Dictionary of Contemporary English*, Third Edition.

OALD<sup>6</sup> = *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, Sixth Edition.

## 参考文献

- 安藤貞雄 (2005) 『現代英文法講義』 東京：開拓社。
- Berk, Lynn M. (1999) *English Syntax: From Word to Discourse*. New York: Oxford University Press.
- Burchfield, Robert William (ed.) (1996) *The New Fowler's Modern English Usage*. Oxford: Oxford University Press.
- Cruse, Alan (2011) *Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics*, 3rd ed. New York: Oxford University Press.
- Fowler, Henry Watson (ed.) (1926) *A Dictionary of Modern English Usage*. Oxford: Clarendon Press.
- Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 小西友七 (編) (1989) 『英語基本形容詞・副詞辞典』 東京：研究社出版。
- 西村義樹 (2002) 「換喩と文法現象」 西村義樹 (編) 『認知言語学 I：事象構造 シリーズ言語科学 第2巻』 東京：東京大学出版会, 285-311。
- Nishimura, Yoshiki. (2003) "Conceptual Overlap in Metonymy," in Masatomo Ukaji, Masayuki Ike-Uchi and Yoshiki Nishimura (eds.), *Current Issues in English Linguistics*. Tokyo: Kaitakusha, 165-190.
- 西村義樹 (2004) 「換喩の言語学」 成蹊大学文学部学会 (編) 『レトリック連環 成蹊大学人文叢書2』 東京：風間書房, 85-108。
- 西村義樹・野矢茂樹 (2013) 『言語学の教室——哲学者と学ぶ認知言語学』 東京：中公新書。
- Peters, Pam (2004) *The Cambridge Guide to English Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Rusieski, Jan (1985) *Adjectives and Comparison in English: A Semantic Study*. New York: Longman.
- Wilson, Kenneth G. (1993) *The Columbia Guide to Standard American English*. New York: Columbia University Press.
- 安井稔・秋山怜・中村捷 (1976) 『現代の英文法7 形容詞』 東京：研究社出版。